

Hello! FUJISEI

No. 155

老後生活の基礎となる公的年金ですが、その額はどのくらいでしょうか？「ねんきん定期便」を見ると、その金額の少なさに驚きます。“優雅な年金生活”などとてもない話で、老後資金準備について真剣に考えるようになった方も多いようです。

総務省のまとめた「家計調査報告（家計収支編）—平成24年平均速報結果の概況—」から老後生活の収支状況をみてみましょう。

●可処分所得は実質減少

総世帯のうち高齢無職世帯（世帯主が60歳以上の無職世帯）の実収入は181,028円で、前年に比べ実質0.7%の減少でした。内訳をみると、公的年金などの社会保障給付は、実収入の約9割を占める157,785円で、前年に比べ実質0.6%減少。また、直接税、社会保険料などの非消費支出は23,190円で、前年に比べ名目0.9%の減少となりました。その結果、可処分所得は157,838円で、実質0.5%の減少でした。

●消費支出は実質増加

消費支出は205,629円で、前年に比べ実質1.3%の増加でした。内訳をみると、

老後生活資金の準備、お考えですか

消費支出が 可処分所得を上回る

高齢無職世帯

交通・通信、家具・家事用品などが実質増加、交際費などの「その他の支出」、教養娯楽などが実質減少となっています。

消費支出の費目別構成比をみると、交通・通信、光熱・水道などの割合が上昇し、交際費などの「その他の消費支出」、教養娯楽などの割合が低下しています。総世帯と比べると、「その他の消費支出」、保健医療、食料、光熱・水道などの割合が高くなっています。

なお、エンゲル係数は25.0%と、前年に比べ0.2ポイントの低下となりました。

下となりました。

消費支出が可処分所得を上回る高齢無職世帯の平均消費性向は130.3%で、前年に比べ2.3ポイント上昇しました。消費支出に対する可処分所得の不足分は47,791円で、前年に比べ3,406円増加しました。不足分は金融資産の取り崩しなどで賄われています。

なお、世帯主が60歳以上の世帯に占める無職世帯の割合は67.8%で、前年に比べ0.5ポイント低下しました。勤労者世帯の割合は15.5%で、0.2ポイントの上昇でした。

高齢無職世帯の家計収支（総世帯）

資料：総務省「家計調査報告（家計収支編）—平成24年平均速報結果の概況—」より

